

「市民アンケートについて」

令和3年12月17日
廃棄物減量等推進審議会
資料1-②

審議会委員意見抜粋

<主な委員意見>

- ・家庭ごみの有料化をし、2年を経たアンケートであるので、現状、感想等を設問に加える。
- ・市として配布している資料等の市民の活用状況を把握すると、ごみの出し方に関して、有効な周知の方法を考えることができると思う。
- ・3Rについての意識と実践は知りたい。選択項目が日常的に意識できる行動になっていることが良いと思う。
- ・今回の市民アンケートについては、有料化・戸別収集・プラスチック製容器包装全量分別収集の実施前後で、市民の意識や行動がどう変わったか把握できる仕様にすると、興味深い知見が得られると思う。それには、できるだけ前回アンケートの質問と比較可能な質問を設ける必要がある。
- ・今回のアンケートは有料化後のものなので、その実態を知ることが大きな意義のひとつであると考え。所帯人数、家族の年齢などしっかり聞いたうえで、ひと月当たりの燃やすごみ、プラスチック製容器包装、燃やさないごみの袋のサイズ、出す回数を調査する。
- ・食品ロスの定義は「本来食べられたのに捨てられた食品」とする。「まだ食べられる」では賞味期限が切れたら食べられないと思っている人にとっては、「もう食べられなくなった」と位置づけられ、食品ロスではなくなってしまふ。食品ロスへの取組を強化するのであれば、選択肢ももう少し具体的、かつ先般の組成調査の分類を反映した方がよい。
- ・問2,3 「リデュース」「リユース」の説明が分かりにくいと思う。リデュースであれば、過剰包装や使い捨てを避けるなど、ごみや資源を出さないようにすることなど。選択肢に、マイバッグ、マイボトルの使用なども入れたらよいと思う。リユースの方も分かりにくいので、定義のところで古着や古本などと具体例を挙げてもよいのではないか。
- ・アンケート調査の対象を、極力細分化する（例 年齢別：20代、30代、40代、50代、60代、70代、…）
- ・文章は優しく書かれており、いいものだ。